

日本人名のローマ字表記について

——歴史的考察——

大 門 正 幸*

(1) はじめに

2000年12月に国立国語審議会によって出された「国際社会に対応する日本語の在り方」と題された答申ではこの習慣が問題視され、日本人名をローマ字表記する際にも日本語式に「姓・名」の順にすることが提案されている。⁽¹⁾

世界の人々の名前の形式は、「名—姓」のもの、「姓—名」のもの、「名」のみのもの、自分の「名」と親の「名」を並べて個人の名称とするものなど多様であり、それぞれが使われる社会の文化や歴史を背景として成立したものである。世界の中で、日本のほか、中国、韓国、ベトナムなどアジアの数か国と、欧米ではハンガリーで「姓—名」の形式が用いられている。

国際交流の機会の拡大に伴い、異なる国の人同士が姓名を紹介し合う機会は増大しつつあると考えられる。また、先に記したように、現在では英語が世界の共通語として情報交流を担う機能を果たしつつあり、それに伴って各国の人名を英文の中にローマ字で書き表すことが増えていくと考えられる。国語審議会としては、人類の持つ言語や文化の多様性を人類全体が意識し、生かしていくべきであるという立場から、そのよう

*人文学部助教授—英語学

な際に、一定の書式に従って書かれる名簿や書類などは別として、一般的には各々の人名固有の形式が生きる形で紹介・記述されることが望ましいと考える。

したがって、日本人の姓名については、ローマ字表記においても「姓一名」の順（例えば Yamada Haruo）とすることが望ましい。なお、従来の慣習に基づく誤解を防ぐために、姓をすべて大文字とする（YAMADA Haruo）、姓と名の間にコンマを打つ（Yamada, Haruo）などの方法で、「姓一名」の構造を示すことも考えられよう。今後、官公庁や報道機関等において、日本人の姓名をローマ字で表記する場合、並びに学校教育における英語等の指導においても、以上の趣旨が生かされることを希望する。

このような問題が指摘される現在の「名・姓」式表記法であるが、日本人が西洋文明と初めて接した当初からこの方式が用いられていたわけではない。オランダ通詞中山家の出身でのち同役の堀儀左衛門の養子となり、後に蕃書調所の翻訳方となった堀達之助によって編纂された、日本で最初の英和辞典ともよぶべき英和对訳袖珍辞書（*A Pocket Dictionary of the English and Japanese Language*）の序文では堀達之助の名前は日本式に「姓・名」の順で表記されている。⁽²⁾

PREFACE

As the study of the English language is now rapidly becoming general in our country we have had for sometime the desire to publish a “Pocket Dictionary of the English and Japanese languages” as an assistance to our scholars.

In the meantime we received an order to prepare such a Dictionary

as soon as possible having in view how indispensable is the knowledge of a language so universally spoken to become rightly and fully acquainted with the manners, customs and relations of different parts of the world and its daily important occurrences and changes.

The teacher of the School of European languages - Messrs. NICI SUESKAY, TIMRA GORO, TAKEHARA YUSHIRO, MITSKORI TEITSIRO, etc. have most cordially lent us their valuable aid and have done all in their power to promote the object of this work.

It is our hearty wish that this work, however imperfect, may tend to assist those who may favor it with their attention and that the words which prove most useful in daily practice may be noted and any faults indicated in order that we may have every facility for improving the next edition.

YEDO

November, 1862.

HORI TATSUNOSKAY

また、日本人と接した西洋人が日本人名を勝手に「名・姓」式に表記してしまったわけでもない。1 例として、マシュー・カルブレイス・ベリー (1794-1858) が 1854 年に 2 度目に来航した時の様子を記した文書を見てみることにしよう。⁽³⁾

Two boats approached as the steamers entered the opening of the bay, and when the anchors were dropped they came alongside the Susquehanna. Kayama Yezaiman, with his two interpreters, came on board, followed immediately by Nagazima Saboroske and an officer

in attendance, who had come in the second boat. They were duly received at the gangway and conducted to seats on the quarter-deck. All were dressed in full official costume, somewhat different from their ordinary garments. Their gowns, though of the usual shape, were much more elaborately adorned. The material was of very rich silk brocade of gay colors, turned up with yellow velvet, and the whole dress was highly embroidered with gold lace in various figures, upon which was conspicuously displayed on the back, sleeves, and breast the arms of the wearer....

この中では浦賀奉行を演じた浦賀奉行所与力香山栄左衛門（かやまえいざえもん）と浦賀奉行所の副奉行を語った応接掛与力である中島三郎助（なかじまさぶろうすけ）の名前が Kayama Yezaiman および Nagazima Saboroske として見られるが、いずれも日本式に「姓・名」の順で表記されている。

このように、西洋文明との本格的な接触が始まった当初は日本側も西洋側も日本人の名前を日本式に表記していたわけだが、現在「名・姓」式表記法が慣例であることから判断して、時代を経るにつれ、西洋式表記法が定着してきたことは間違いないが、ではいつ頃、どのような形で西洋式表記法が定着してきたのかという問題について詳細な実証的研究はなされていないようである。

西洋文明という憧憬・畏怖の対象に接した日本人の対応という点でも、現在の姓名の表記法に関する問題の原点を考えるとという点でも、詳細な資料に基づいた姓名表記法変遷の歴史的考察は欠かせないものであり、本研究はその先駆けとなることを目指したものである。具体的には、本稿では同志社大学の創立者として知られる新島襄（1843-1890）の英文日記を取り上げ、そこに登場する日本人がどのように表記されているかについて調査を行う。

1. 新島襄の生涯

本稿の調査対象である英文日記の性格を明らかにするためには、新島襄の生い立ちについて触れておく必要があるので、以下同志社大学ヴァーチャル博物館の「新島襄の生涯」に基づいて新島襄の生い立ちについて述べておくことにする。⁽⁴⁾

1843(天保14)年、安中藩江戸藩邸で生まれた新島は10歳の時、主君の命令で漢籍を学び始め、14歳になってからは、同じく主君の命により、蘭学を学び始める。1853(嘉永6)年のペリー艦隊の来日による時代の移り変わりを感じた新島は向学心止みがたく、藩の許可を得て幕府の軍艦操練所に入学し、航海術を学び始める。その頃漢文によるアメリカを紹介する書物、ロビンソン・クルーソー漂流記の和訳、さらに漢訳のキリスト教に関する書物や漢訳の聖書などを読み始め「憂国の情」と共にキリスト教への関心を高めていく。

1864(元治元)年、脱国を企て、アレクサンダー・ポーター商会の店員であった福士卯之吉の協力により、上海に向けて出帆するアメリカ船ベルリン号に乗る。ベルリン号は、7月1日に上海に入港し、新島はここで別のアメリカ船ワイルド・ローバー号に乗り換え、1年後の翌1865年7月20日にボストン港に到着する。ボストンでハーディ(Alpheus Hardy)の援助によりボストンの北、アンドーバー(Andover)にある、私立の名門校、フィリップス・アカデミー、ついでアーモスト大学に入学し、アメリカの大学を正規に卒業した日本人第1号となる。さらにアンドーバー神学校に入学するが、新島が在学中の1872年、岩倉具視を代表とする遣米使節団から召還され、その随員の一人である田中文部理事官から、欧米の教育調査に際して通訳と協力を依頼され田中文部理事官と二人で、ニューヨークからヨーロッパにわたり、フランス、スイス、ドイツ、さらにロシアを訪ね各地の教育制度について視察する。1874(明治7)年にアンドーバー神学校を卒業し、日本伝道通信員として宣教の資格を得て帰国。宣教師として活動を始めた新島は、大阪、岸和田での伝道のかたわら、学校設立の運動を行い、1875(明治8)年、「官許同志社英

学校」を開学。1884(明治17)年アジアとヨーロッパを旅行した新島は、害した健康回復のためアメリカに向かい、1885(明治18)年までの1年あまりをアメリカで過ごす。帰国後大学設立のための募金活動のために、病身で奔走していた新島は1889(明治22)年病いに倒れ、翌年の1890(明治23)年1月に46歳11ヶ月の生涯を終える。

海外を旅行する時英文で日記をつけることを習慣としていた新島であるが、現在残されているものは以下の通りである。

- 1) 1872年から1873年にかけての田中文部理事官との視察旅行時のもの (Travel with Commissioner Tanaka)
- 2) 1873年のアンドーバー神学校期から1874年の帰国、そして1875年の奈良、宇治、石山、京都滞在記を含めたもの (New England Again and Return to Japan)
- 3) 1884年にアジアとヨーロッパを旅行した時のもの (Asia and Europe)
- 4) 1884年から1885年にかけて、健康回復のためにアメリカを訪れた時のもの (America Again)

2. 新島襄自身の表記法

『新島襄全集6』の序文を執筆しているオーテス・ケーリが指摘しているように、新島は自分の姓をローマ字表記する場合、Nee Sima、Nee-Sima、NeeShima、そしてNeesimaとつづり方を進化させている。一方、名の方はワイルド・ロウヴァー号のテイラー船長が呼びやすくするために新島をJoeと呼び始めたため、それを受け入れ、JoeまたはJosephとつづっている。なお、新島の幼少の名前は七五三太(しめた)、成人後の名前は敬幹(読み方不詳)であるが、本人は日本を脱国するまで七五三太を使っていた。姓と名の順序に関しては一貫して「名・姓」の順であるが、日本帰国によるハーディー家との別れの際にハーディーの名前をミドル・ネームとして使う許可を得て

からは Hardy または H.を用い、Joseph Hardy Neesima または Joseph H. Neeshima としている。

3. 新島襄の日記の表記法

『新島襄 7：英文資料編』全集に収録された日記に登場する人名がどのように表記されているかを一覧にしたのが表 1 である。⁽⁵⁾

表 1 新島襄の日記における人名表記法一覧

日記の種類	年	月	日	ページ	人 物	文中での表記	分 析
TRAVEL WITH COMMISSIONER TANAKA	1872	4	15	44	田中不二磨	Mr. Tanaka	姓のみ
	1872	4	30	46	長岡護美	Mr. Nagaoka	姓のみ
	1872	6	19	64	菊池大麓	Kikuchi	姓のみ
	1872	7	22	72	今村和郎	Imamura Kazuro	姓名
	1872	8	21	84	今村和郎	Imamura	姓のみ
NEW ENGLAND AGAIN AND RETURN TO JAPAN	1873	10	16	92	箕作佳吉	Mitzukia [Mitsukuri]	姓のみ
	1875	4	1	112	松村矩明	Matsumura 矩明	英語と日本語
	1875	4	1	112	高木玄真	Dr. Takagi	姓のみ
	1875	4	3	114	喜撰法師 (歴史人物)	Kisen Hoshi	姓名
	1875	4	3	114	喜撰法師 (歴史人物)	Kisen no tea	姓のみ
	1875	4	3	114	喜撰法師 (歴史人物)	Kisen	姓のみ
ASIA AND EUROPE	1884	4	4	129	浜岡光哲	Hamaoka	姓のみ
	1884	4	4	129	沢辺正修	Sawabe Seishu	姓名
	1884	4	4	129	高本文平	Messrs. ...,Takagi...	姓のみ
	1884	4	4	129	田中源太郎	Messrs.Tanaka, ...	姓のみ
	1884	4	4	129	山本覚馬	Mr. Yamamoto	姓のみ
	1884	4	5	129	広瀬幸平	Mr. Hirose Saihei	姓名
	1884	4	6	129	石原久之祐	石原久之祐	日本語
	1884	4	6	129	北轡左衛門	Kita Gizaemon	日本語
	1884	4	6	130	甲賀ふじ	Miss Fuji	名のみ
	1884	4	6	130	中村栄助	Mr. (...) Nakamura	姓のみ
	1884	4	6	130	田辺次郎一	次郎一田辺	名姓(日本語)
	1884	4	6	130	山路一三	Yamaji	姓のみ

日記の種類	年	月	日	ページ	人 物	文中での表記	分 析
ASIA AND EUROPE	1884	4	6	130	湯浅治郎	Mr. ... , Yuasa	姓のみ
	1884	4	21	141	田辺次郎一	Mr. T	イニシャル
	1884	5	12	152	田辺次郎一	Mr. Tanabe	姓のみ
AMERICA AGAIN	1884	9	30	209	中島力造	R. Nakashima	イニシャル姓
	1884	12	15	213	小崎弘道	Kozaki	姓のみ
	1884	12	19	213	小崎弘道	Kozaki	姓のみ
	1885	11	3	213	長田時行	Osada	姓のみ
	1885	1	15	214	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	1	15	214	長田時行	Osada	姓のみ
	1885	1	20	214	浜岡光哲	Messrs.Hamaoka...	姓のみ
	1885	1	20	214	市原盛宏	Mr. Ichihara of Kioto	姓のみ
	1885	1	20	214	板垣退助	Itagaki	姓のみ
	1885	1	20	214	森田久万人	Morita	姓のみ
	1885	1	20	214	高本文平	Messrs...,Takagi...	姓のみ
	1885	1	20	214	田中源太郎	Messrs. ...,Tanaka	姓のみ
	1885	1	22	214	市原盛宏	Ichihara	姓のみ
	1885	1	23	214	市原盛宏	Ichihara	姓のみ
	1885	1	23	214	金森通倫	Mr. Kanamori	姓のみ
	1885	1	26	214	田村直臣	Mr. Tamura of Tokio	姓のみ
	1885	1	30	215	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	2	14	216	蔵原惟郭	Kurahara	姓のみ
	1885	2	20	216	市原盛宏	Mr. Ichihara	姓のみ
	1885	2	20	216	森田久万人	Mr. Morita	姓のみ
	1885	2	20	216	新島公義 nephew-in-law	Kogi	名のみ
	1885	2	20	216	新島八重 wife	Yaye	名のみ
	1885	2	27	216	田村直臣	Mr. Tamura	姓のみ
	1885	3	1	216	小谷野敬三	Koyano Keizo	姓名
	1885	3	6	238	太田稲造 (新渡戸)	太田稲造	日本語
	1885	3	6	238	太田稲造 (新渡戸)	Ota	姓のみ
	1885	3	7	239	太田稲造 (新渡戸)	太田	日本語
	1885	3	7	239	太田稲造 (新渡戸)	Mr. Ota	姓のみ
	1885	3	9	217	小崎弘道	K. Kozaki(?)	イニシャル姓
	1885	3	24	218	沢山保羅	our friend Sawayama	姓のみ
	1885	4	5	219	不破唯次郎	Fuwa	姓のみ
	1885	4	5	219	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	4	5	219	小崎弘道	Kozaki	姓のみ

日記の種類	年	月	日	ページ	人 物	文中での表記	分 析
AMERICA AGAIN	1885	4	5	219	新島八重 wife	Yaye	名のみ
	1885	4	7	219	不破唯次郎	Mr. Fuwa	姓のみ
	1885	4	7	220	田村直臣	Mr. Tamura	姓のみ
	1885	4	15	222	小崎弘道	Kozaki's paper	姓のみ
	1885	4	27	231	九鬼隆一	Mr. Kuki - 九鬼	姓のみ
	1885	5	7	239	内村鑑三	Mr. Uchimura	姓のみ
	1885	5	22	243	不破唯次郎	Fuwa's	姓のみ
	1885	6	5	244	蔵原惟郭	Kurahara	姓のみ
	1885	6	17	249	蔵原惟郭	Kurahara's case	姓のみ
	1885	7	7	255	不破唯次郎	Fuwa	姓のみ
	1885	7	11	256	蔵原惟郭	Kurahara	姓のみ
	1885	7	18	258	蔵原惟郭	a poor compatriot Kurahara	姓のみ
	1885	7	18	239	太田稻造 (新渡戸)	Inazo Ota	名姓
	1885	7	29	259	新島公義 nephew-in-law	公義	日本語
	1885	8	13	260	内村鑑三	Uchimura	姓のみ
	1885	8	13	260	内村鑑三	内村	日本語
	1885	8	13	260	内村鑑三	内村	日本語
	1885	9	12	261	蔵原惟郭	Mr. Kurahara	姓のみ
	1885	9	15	262	蔵原惟郭	Kurahara	姓のみ
	1885	10	16	268	下村孝太郎	下村	日本語
	1885	10	16	268	内村鑑三	内村	日本語
	1885	10	23	269	不破唯次郎	Fuwa	姓のみ
	1885	11	9	274	蔵原惟郭	蔵原	日本語
	1885	11	9	274	下村孝太郎	下村	日本語
	1885	11	9	274	内村鑑三	内村	日本語
	1885	11	14	276	小崎弘道	小崎	日本語
	1885	12	1	279	森有礼	森有礼	日本語
	1885	12	1	279	津田梅子	梅	日本語
	1885	12	10	212	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	12	15	213	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	12	19	213	伊勢時雄	Ise	姓のみ
	1885	12	19	213	松山高吉	Matsuyama	姓のみ

表1の最初の列にあげられているのは、上述の新島の4種類の日記である。次の3つの列では当該の日記が書かれた年・月・日が、その次の列では、当該の人物が『新島襄7：英文資料編』のどのページに登場するのかがあげられている。次の列では当該の人物が、それに続く列ではその人物が日記中でどのように表記されているのかがあげられている。最後の列は表記法を分類

したものである。

さらに、表1をもとに、表記法の集計を行ったものが表2である。

表2 新島襄の日記における人名表記法の集計結果

	姓名	名姓	イニシャル姓	姓のみ	名のみ	日本語	その他	合計
TRVEL WITH COMMISSIONER TANAKA (1872)	1			4				5
NEW ENGLAND AGAIN AND RETURN TO JAPAN (1873-1875)	1			4			1	6
ASIA AND EUROPE (1884)	2			8	1	3	1	15
AMERICA AGAIN (1884-1885)	1	1	2	45	3	13		65
Total	5	1	2	61	4	16	2	91

表2から明らかなように、大半(91例中61例 = 67.0%)は姓のみの表記である。また英文の日記でありながら、人名の2割近く(91例中16例 = 17.6%)は日本語で表記されている。また、名のみの場合が4例あるが、いずれも新島の身内である。本研究の中心的话题である、「姓・名」の順序という点に関しては、いずれの日記にも「姓・名」式、すなわち日本式表記法が現れていることが興味深い。また、「名・姓」式表記法、あるいは「イニシャル・姓」表記法、すなわち欧米式表記法は時代的に最後の日記にのみ現れている点にも注目すべきであろう。全体数が少ないので決定的なことは言えないが、自分の名前を英文表記する場合には Joseph Hardy Neeshima のように完全に西欧化してしまった新島にとっても無意識的にせよ日本式表記法は強く生き続けていたこと、また後の時代では西洋式表記法の影響が強く出始めたことが感じられるであろう。

4. まとめ

以上、本稿では『新島襄7：英文資料編』における新島の英文日記に焦点を当て、日本人名の表記法に関して分析を行った。しかしながら、登場する

日本人名 91 例のうち、本稿の中心的話題に関わる例は 7 例と少なく、新島襄の表記法に関して決定的なことを述べることはできない。この資料的不備を補うために、今後新島の英文書簡の分析を行うことが急務である。

冒頭でも述べたように、本稿は詳細な資料に基づいた姓名表記法変遷の歴史的考察の先駆けとして新島襄の英文日記を分析したものであり、今後それぞれの時代の代表的人物の表記法について研究を進めていく必要がある。

注

- (1) 答申の URL は以下の通り：

<http://www.monbu.go.jp/singi/kokugo/00000041/3.htm>

- (2) 堀孝彦・遠藤智夫『「英和对訳袖珍辞書」の遍歴一目で見る現存初版 15 本一』（辞游社、1999 年）中のファクシミリから引用。

- (3) 引用は *The Internet Modern History Sourcebook* の Modern History Sourcebook: Commodore Matthew Perry: When We Landed in Japan, 1854 からのものである。原典は Eva March Tappan, ed., *The World's Story: A History of the World in Story, Song and Art*, (Boston: Houghton Mifflin, 1914), Vol. I: *China, Japan, and the Islands of the Pacific*, pp. 427-437 からであり、テキストのつづりは Prof. Arkenberg によって現代式に改められている。*The Internet Modern History Sourcebook* および本文で引用した該当ページの URL はそれぞれ以下の通り。

<http://www.fordham.edu/halsall/mod/modsbook.html>

http://www.fordham.edu/halsall/mod/1854_Perry-japan1.html

- (4) URL は以下の通り。

<http://kohara.theo.doshisha.ac.jp/virtualmuseum/neesima/index.htm>

- (5) 新島襄全集編集委員会編『新島襄全集 7：英文資料編』（同朋舎出版、1996 年）

(2001 年 10 月 1 日 受理)